

CyberAgent® 研究開発

CyberAgent には、事業領域に応じた研究開発組織があります。
デジタル広告事業における「AI Lab」とメディア事業における「秋葉原ラボ」は CyberAgent の 2 大ラボです。

デジタル広告事業領域の AI Lab

「AI Lab」では、機械学習、計量経済学、コンピュータビジョン、自然言語処理、対話システム、HAIなどを専門とする研究者が所属し、広告を取り巻く様々な課題の解決や、広告の未来を切り拓く研究に取り組んでいます。また現在17の大学と共同研究を行うなど、産学連携を積極的に推進しています。

研究領域

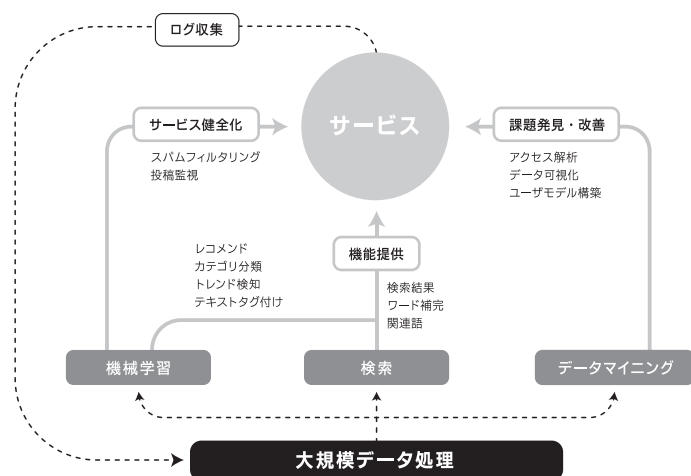
対話エージェント/自動対話技術	広告クリエイティブの制作支援と自動生成
「人が信頼したくなる対話エージェント」の開発を目指し、自動応答や感情抑制、情報推薦などの技術開発に挑戦しています。 今、世の中に存在しない新しいインタラクションを創造し、心から信頼したくなるチャットボット・ロボット体験の実現を目指しています。	クリエイティブアセットのデータを元に、広告効果の高い要素を分析・学習し、運用コンサルタント、デザイナーの製作支援、そして機械学習を用いたクリエイティブの自動生成技術の実現を目指して研究開発を進めています。
広告の因果効果の分析	ハイパーパラメータ最適化
実際に配信されたデータを用いた機械学習と因果推論を組み合わせる事で、場所やタイミング、ユーザーに対してターゲティング等の条件別に因果効果を特定し、広告配信におけるターゲティングの改善をする事を目指しています。	機械学習モデルについてより効率的に優れた性能を導き出すためには最適化手法およびソフトウェア実装の改善が重要となります。 パラメータ最適化チームでは広告システムを支える機械学習モデルの性能を最大限引き出すための研究開発をしています。

メディア事業領域の 秋葉原ラボ

秋葉原ラボは大規模データ処理やデータ分析、機械学習などを専門とするエンジニアが在籍する研究開発組織です。
サイバーエージェントのメディアサービスから日々生成されるユーザーのアクセスログや行動ログなどを大規模に集積、処理する基盤を整備し、その基盤上のデータを機械学習や自然言語処理技術などを用いてサービスに活かせるシステムを構築、提供しています。
また、基盤上のデータを分析、マイニングすることによりサービスやユーザーの状況を把握し、サービス拡大および健全化を図る組織を担っています。

研究・開発領域

機械学習技術においては、「自然言語処理」「マルチメディア」「情報推薦」の分野において専門性を持ったエンジニアが在籍し、サービスへ課題に応じたソリューションを提供しています。
展開する様々なメディアサービスへ効率的にソリューションを提供するため、基盤技術開発やデータ分析にも力を入れています。



CyberAgent の研究・開発、発表一覧などより詳しい情報は、CyberAgent コーポレートサイトよりご覧いただけます。是非、ご覧ください。
<https://www.cyberagent.co.jp/techinfo/labo/>

